

## 平和のとりでの作り方

(原文)

仲村 遥 (9 歳)

東京都

文京区立駕籠町小学校

教育には、3 つの種りがあります。学校教育と、家庭教育と、社会教育です。今、私はぎむ教育中です。日本では、小学校の 6 年、中学校の 3 年がぎむ教育です。学校では、国語や理科社会、算数の仕方を教えてもらい、図工では、絵をかいたり、音楽では、楽器をえんそうしたりします。

家族は 4 人です。父や母に、ごはんの食べ方を注意されたり、せんたく物をとりこんでどの様なたみ方をすると、たんすに入れやすいかを、教えてもらったりします。兄とけんかしたときは、父にけんかするのはなぜいけないかを、こんこんと説明されます。

道を歩いているとき、どんなに細い道でも、右がわを歩きます。犬をさん歩させて、犬がしたウンチは、かたづけます。エスカレーターに乗るときはかたがわに乗ります。これは私が受けた社会教育のおかげです。

学校で、ぼ金活動をします。ユニセフのぼ金用のふうとうには、「このお金で、勉強をしたくてもできない、世界中の子供たちが、何人も勉強できるようになります。」と、書いてあります。私が授業を受けている間、勉強ができない子は、何をしているのでしょうか。テレビで、学校に行かないで家族のために水くみをしている子供を見ました。はたらいているのです。

ユネスコけんしょうには、「せんそうは、人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に、平和のとりでをきずかなくてはならない。」と、あります。心を作るには、家庭教育がき本です。温かい心を持っている人は、温かい家庭に育っているのではないのでしょうか。良いことをすれば、ほめてくれる。悪いことをすれば、しかってくれる。正しい道を歩いていけるように、教えてくれる人がいる場所が必要です。そこには、温かさがいます。冷たいと、ほめかたもやさしくありません。しかり方も、きびしくなります。私の父はいつもやさしくせっしてくれます。しかし、私が人の悪口を言ったり、兄とけんかしたりしたときは、言い方はおだやかですが、ビシッとしかられます。父は、「相手のことを非難するのは、相手をよくみていないからだよ。自分のまわりにいる人たちを、そん重して見ると、いいところがたくさん見えてくるよ。」と、言います。父の言うようにすると、心の中に、争そう気もちは生まれません。平和のとりでとは、人をそん重して、よく見ることなのです。

世界に住んでいる人々には 3 つの種りの教育が全て必要です。父や母、兄のいない子供たちも、その役わりを果たす人がいればいいのです。「まわりにいる人たちをそん重する。」ということを学ぶ

ことが、理想の教育です。